

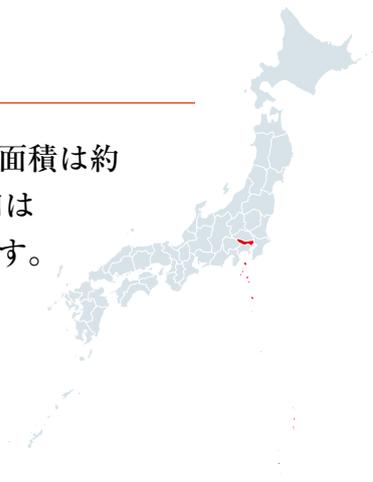
東京都農業信用基金協会

1. 東京都の紹介

江戸時代から日本の首都として発展し続け、現在は全国で最も多い約1,400万人が暮らしています。区部地域(23区)と多摩地域・島しょ地域(26市5町8村)からなります。

総面積は2,194km²と全国で3番目の小ささです。東西に長く、海拔4m以下の低地から2,000m超の山地まで起伏に富むほか、島しょ地域として、伊豆諸島、小笠原諸島があります。

区部地域の面積は約628km²、人口は約970万人です。また、多摩地域の面積は約1,160km²、人口約430万人が暮らしています。



2. 東京都の農業

東京の農地面積は、6,530ha(令和2年)となっており、東京都の総面積の2.97%に相当します(農林水産省、「作物統計調査 耕地面積」)。

農地面積6,530haのうち、2,972haが生産緑地になります。生産緑地の鈍化的な減少がみとれますが、農家のたゆまぬ努力により保全され、都市農業の多面的機能を発揮し、潤いのある快適なまちづくりに貢献しています。

東京都の農業産出額は、229億円(野菜129億円、花き32億円、果実32億円、畜産20億円、その他16億円)となり、農業産出額の構成は、第1位コマツナ(8.3%)、2位ホウレンソウ(7.0%)、3位日本ナシ(6.1%)、4位エダマメ(4.8%)、5位生乳(4.4%)で、生産物が多品目にわたるのが特徴です。

野菜以外にも果樹類や花き・植木類、畜産物など幅広く生産され、バラエティの豊かさが東京農業の特徴となっています。

また、大消費地にある利点を活かし、加工・直売・観光にわたる多角的経営など、多様な農業経営が展開されています。

さらに、「江戸東京野菜」(昭和40年頃ま

で生産されていた在来種)の普及につとめており、練馬大根、東京ウド、アシタバ、谷中ショウガなど現在50種類の野菜を登録しています。



後関晩生小松菜



東京うど



練馬大根

東京都の中でも、さらに地域によって特産があり、区内地域の、コマツナやキャベツのほか、シクラメンやアサガオ等の鉢花、ブドウやブルーベリー等の果樹類も生産されています。西多摩地区の山間部ではワサビの生産が行われ、その他、飼育牛の「秋川牛」、都が開発した脂肪を含み風味・味

わいに優れた豚「TOKYO-X」、赤色が濃く歯ごたえのある肉鶏「東京しゃも」などが生産されています。ほかにも、あきる野市のスイートコーン、瑞穂町の「東京狭山茶」などが有名です。南多摩地区では、稲城市の梨「稲城」やブドウ「高尾」など、果樹の生産も盛んに行われております。



「稲城」の梨



ブドウ「高尾」

最近では、亜熱帯果樹のパッションフルーツの生産も進められています。北多摩地区では、特に、ブルーベリーは全国に先駆けて小平市で栽培が始まり、同市は農産物としての「ブルーベリー栽培発祥の地」として知られています。立川市、国分寺市、武蔵野市などで生産されているウドは、東京の特産品として全国的な知名度を誇っています。島しょ地域では、アシタバを中心にレザーファンやストレッチアなどの切り葉・切り花が有名で、島レモン、パッションフルーツなどの果樹も盛んに栽培されています。（上記画像は全てJA 東京中央会提供）

3. 東京都農業信用基金協会の概要

当協会は、常勤役員1名、職員14名で、総務部・業務部・管理部の3部体制となっています。

事務所はJ R立川駅南口徒歩3分に位置する、J A東京第2ビル4階にあります。



4. 東京都農業信用基金協会の活動

令和3年度は、新規保証額293億円、保証残高1,796億円となり、前年より152億円保証残高が増加しました。

新規保証額の内、85%が住宅資金で農業資金はわずか0.06%となっています。

農業資金に対する保証料の負担感が大きいことと、需要が少ないことが影響しています。

今年度も、住宅資金の拡大を目指し、段階別保証料率の改正や、業者と契約を締結した「提携住宅ローン」の取扱を強化しています。

他保証機関との競争が激化する中、融資機関への定期的な訪問や、役員クラスに協会の経営について説明し協議を行う運営委

員会、部課長クラスに保証業務についてのニーズや意見交換を行う部課長会議を開催しています。

集合研修や訪問研修に加え、令和3年度から当協会事務所において実務に即した研修を短期間行う「受入研修」を実施しています。

これは会議の席上、融資機関から人材育成支援の要望があり実現したもので、好評を得ています。

これからも、利用者の利便性向上と融資機関の負託に応えていくための努力を続けてまいります。